

biblatex-jamod

rtfcv

August 19, 2022

Contents

1 はじめに	1
1.1 主な機能	1
1.2 要求	2
2 ビルド・インストール	2
2.1 make が利用可能な場合	2
3 処理	2
3.1 依存関係	2
3.2 japanese を english へ map する	2
3.3	2
3.3.1 日本語の著者名を持つ文献で language フィールドの値を japanese に変更	2
3.3.2 複数著者の表現を修正	3
3.3.3 日本語書籍の強調を斜体から太字へ	3
3.4 他の部分の表現を翻訳・修正	3
3.5 日本語の姓名の反転を修正	3
3.6	4

1 はじめに

biblatex を日本語で使用するための設定をまとめたものです。

```
\usepackage[style=...]{biblatex-jamod}
```

のように使用することができます。

本パッケージ自体の設定インターフェースは存在せず、現時点ではオプションはすべて biblatex 側に渡されます。動作を改変したい場合適宜本パッケージのソースを直接編集する、もしくは L^AT_EX 文章ファイルのプリアンブルに適宜記述してください

1.1 主な機能

- 日本語の著者名を自動で姓名順に変更
- いくつかの \bibstring を日本語へ翻訳
- 日本語の文献の場合複数引用時の 'and' を '・' へ修正

1.2 要求

upL^AT_EX もしくは luaL^AT_EX が必要です。

他の依存関係は以下があれば大丈夫だと思います。

- expl3
- biblatex

無くてもなんとかありますが、以下があればよりビルド・インストールの実行が容易です。

- latexmk
- make

2 ビルド・インストール

2.1 make が利用可能な場合

make コマンドを実行すると biblatex-jamod.sty ファイルと build/biblatex-jamod.pdf が生成されます。

make install を実行することで TEXMFHOME 以下へインストールが行なわれます。PREFIX 環境変数を渡すことでインストール先を変更することができます。

make all を実行することで README.*を含む全てのファイルを生成することが出来ます。make README.(pdf|rst) でこれらを個別に生成することも可能です。

3 処理

ここでは以下のファイルの内容を取りあつかう<*biblatex-jamod.sty>

3.1 依存関係

```
1 \RequirePackageWithOptions{biblatex}[2022/01/01]
```

3.2 japanese を english へ map する

japanese を english の dialect として定義する。これは biblatex が japanese を認識しない問題のためのワークアラウンドで将来は必要なくなるかもしれない。

```
2 \DeclareLanguageMapping{japanese}{english}
```

3.3

3.3.1 日本語の著者名を持つ文献で language フィールドの値を japanese に変更

後の処理で利用するために日本語で書かれたエントリーに関して language フィールドの値を japanese にします。

```
3 \DeclareSourcemap{
4   \maps[datatype=bibtex]{
5     \map{
6       \step[fieldsource=author, match=\regexp{[一-𠩺あ-んァ-ン]+}, final]
7       \step[fieldset=language, fieldvalue={japanese}]
8     }
9   }
10 }
```

3.3.2 複数著者の表現を修正

3.3.1 で language フィールドに japanese がセットされたエントリーについては複数著者の際の表現を A, B, ... , and Z から A、B、... Y・Z に変更します。

language フィールドのなかみをきちんとチェックできてない部分があるので修正が必要です。

```
11 \newbibmacro*{finalnamedelim:{japanese}}{%
12   \addspace{・}
13 }
14 \let\orig@multinamedelim=\multinamedelim
15 \renewcommand*{\multinamedelim}{\iflistundef{language}{\orig@multinamedelim}{、}}
16 \renewcommand*{\finalnamedelim}{%
17   \iflistundef{language}
18   {
19     \ifnumgreater{\value{liststop}}{2}{\finalandcomma}{}%
20     \addspace\textit{and}\space
21   }{
22     \usebibmacro*{finalnamedelim:\strlist{language}}
23   }
24 }
```

3.3.3 日本語書籍の強調を斜体から太字へ

以下のマクロを実装する。

\JamodEmphHack 日本語の書籍の場合書体などの強調部を斜体ではなくゴシックになるようにする。

```
25 \newcommand{\JamodEmphHack}{
26 \newcommand{\myemph}[1]{\iflistundef{language}{\emph{##1}}{\textgt{##1}}}
27 \renewrobustcmd*{\mkbibemph}{\myemph}
28 \protected\long\def\blx@imc@mkbibemph##1{\myemph{##1}\blx@imc@setpunctfont\myemph}
29 }
```

3.4 他の部分の表現を翻訳・修正

‘retrieved at’ の和訳

```
30 \DeclareFieldFormat{urldate}{#1\textit{urlseen}}
31 \DefineBibliographyStrings{japanese}{urlseen={閲覧},}
```

‘References’ の和訳

```
32 \DefineBibliographyStrings{japanese}{references={参考文献},}
```

‘In:’ を非表示

```
33 \DefineBibliographyStrings{japanese}{in={ },}
34 \renewcommand{\intitlepunct}{ }
```

language フィールドを消さずに見えないようにする。

```
35 \DeclareListFormat{language}{ }
```

3.5 日本語の姓名の反転を修正

```
36 \ExplSyntaxOn
37 \newcommand{\BiblatexJamod@authoreval}[1]{
38 \DeclareNameFormat{mydefault}{
39   % author and name combined
40   \edef\mystr{\namepartfamily\namepartgiven}
41 }
42 % define \BiblatexJamod@authoreval{#1} which match #1 for predefined regex and do stuffs
43 \renewcommand{\BiblatexJamod@authoreval}[1]{
44   \regex_match:nnTF{[一-顧あ-ん]+}{#1}{
45     \usebibmacro{name:given-family}{\namepartgiven}{\namepartfamily}{\namepartprefix}{\namepartsuf
46   }{ }
```

```

47     \usebibmacro{name:given-family}{\namepartfamily}{\namepartgiven}{\namepartprefix}{\namepartsuf
48   }
49 }
50
51 % expand \authoreval after \namepartfamily
52 \expandafter\BiblatexJamod@authoreval\mystr
53 \usebibmacro{name:andothers}
54 }
55 \ExplSyntaxOff
56 \DeclareNameAlias{author}{mydefault}

```

3.6

</biblatex-jamod.sty> の内容は以上となります。